

他にないこだわりの品揃えで、多くの地元客や観光客で賑わう雑貨店に！

5. (合名) 中村屋商店

店舗名	中村屋商店	【店舗外観】 
所在地	千葉県佐原市佐原イ	
業種	小物・雑貨販売	
所属商店街名	佐原中央商店街	

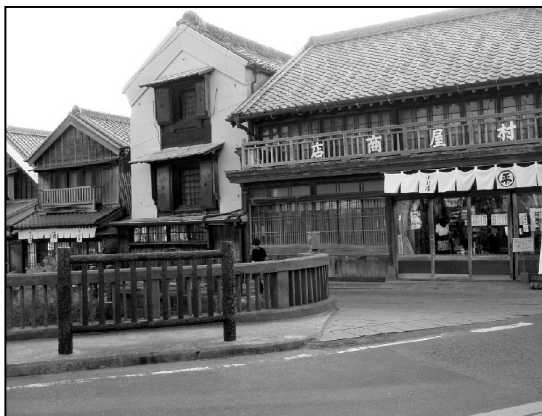
【店舗の概要】(沿革、立地、経営者、取扱商品など)

千葉県佐原市の中央部を流れる小野川沿いは、「伊能忠敬旧宅」や古くは江戸時代からの商家の建物があるなど、国・県指定の有形文化財が数多く立ち並んでおり、一帯は「重要伝統的建造物保存地区」に定められている。

中村屋商店は、保存地区のほぼ中央部、小野川沿いの「忠敬橋」のたもとに位置する。JR 佐原駅から徒歩 10 分程の距離にあるが、観光で訪れる人の大半が通過する商業立地としては一等地にある。中村屋商店の店舗家屋も、安政 2 年（1855 年）の建築であり、千葉県有形文化財に指定されている。



▲風情ある小野川沿い



▲歴史ある町並みの一角にある中村屋商店

中村屋商店は、現在の経営者で 5 代目に当たる老舗で、畳材料の卸商として明治 7 年に創業し、ほどなく畳材料の専門卸業となる。平成 5 年に、事務を手伝っていた夫人が現業の傍ら店先に自身の手作りの雑貨類を並べて販売したのが、現在の「和風小物・雑貨店」の始まりである。夫人は、小野川沿いの町並み見学や、伊能忠敬記念館等を訪れる多くの観光客が店の前を通るのを眺めていて、何とかこの好立地を活かし、

観光客相手の商売をしたいと考えたのがきっかけだった。

平成13年に需要が減少していた畳の材料卸業を廃業し、「和風小物・雑貨店」に絞り込んだ。翌平成14年の売上は飛躍的に増加し、以降順調に伸び続けている。

経営者も営業に参画し夫婦で“こだわりの店”につくり上げたことと、佐原市の“観光による街づくり事業”による観光客の増加が大きく影響している。

【当店の特長】(特に優れている点)

①歴史ある建物を活かした、見ているだけで楽しく飽きさせない店内

中村屋商店は、その築150年の商家の建物に誰もがまず目を惹かれる。そして、開け放たれた木枠のガラス戸から内部に入ると、可愛らしい和風の雑貨、小物類がところ狭しと並んでおり、珍しい商品を1つ1つ見ているうちに、どんどん店奥に引き込まれていく。

根付、手ぬぐい、袋物、和紙の葉書、下駄など「和のもの」で統一された商品が、その建物と風情ある町並みに調和しており、昔の「小間物屋」を連想させる。その雰囲気と品揃えの豊富さが、来店客の滞在時間を長くし客単価アップにつながっている。



▲店内の様子 ～全て「和」で統一した商品がズラリと並ぶ～

②「和」、「手づくり」、「他店との差別化」にこだわった品揃え

様々な和雑貨を販売する中村屋商店であるが、品揃えに関しては「どこにでもある土産物は扱わない」を基本ルールとしている。

店内各所の目立つ場所に配置されているのは、他の店で全く扱っていない“中村屋オリジナル商品”である。エプロン、割烹着、袋物、コースター、日めくりカレンダーなど夫人手づくりの商品は、2つとして同じ商品がない。“中村屋オリジナル商品”としては他に、同店がデザイン企画し製造委託している装飾品などがあり「佐原」にちなんだものが多い。

オリジナル商品以外にも、地元の方の手づくりの創作品の販売や、佐原市の祭り「佐原の大祭」用の商品、千葉県の工芸品を扱うなど、他にない“地元”を意識した物が目立つ。

夏季の一番の売れ筋は、千葉県内で初めて経済産業省の伝統工芸品に指定された「房州うちわ」である。和紙と布の扇面が美しく全て職人の手作業によりつくられたうちわ（価格はサイズにより 1,260 円、1,500 円、2,000 円）である。



▲手づくりの「房州うちわ」と「装飾品」 ▲佐原市の祭にちなんだオリジナル商品

「オリジナル」「地元」のもの以外は、東京で開かれる展示会や問屋を回るなど、自店のお客様に合った新しい商品を探して取り入れており、現在約 35 社から仕入れている。ここでも「他店であまり扱っていない」を重要条件とし、夫人の見立てで少量生産かつセンスの良い和雑貨を仕入れている。

このように、単なる土産物に留まらない“こだわりの商品”が多いことから、観光の中心にありながら地元固定客も多くついており、佐原市内や周辺部の市町村から定期的に来店して購入する人も増えている。正確に採取したデータではないが、全体の購買客数のうち、地元周辺部の方と遠方からの観光客は、半々の割合である。

【商店街事業の概要】

平成 15 年度に株式会社ぶれきめらが、小野川という地域資源を活かした水上循環バス（舟運）の運航を行ない、風情ある歴史的な街並みとの相乗効果による集客効果を見込んだ。平成 16 年度は商店街活性化につながる新たな舟運コースを増設し、商店街との連携事業やイベント等の実施により来街者増加に貢献している。舟運運行により佐原の知名度が高まり、空き店舗に新たな店が出店するという効果が出ている。（詳細は 126 ページを参照。）

【商店街事業と当店との関連】

観光客相手の商売を考えたことが現在の商売の発端であり、観光客の増加が与える影響は非常に大きい。実際、小野川舟運事業により観光客が増え、新規来店客が増加した。再度佐原を訪れた際にはリピート購入するなど固定客も着実に獲得している。


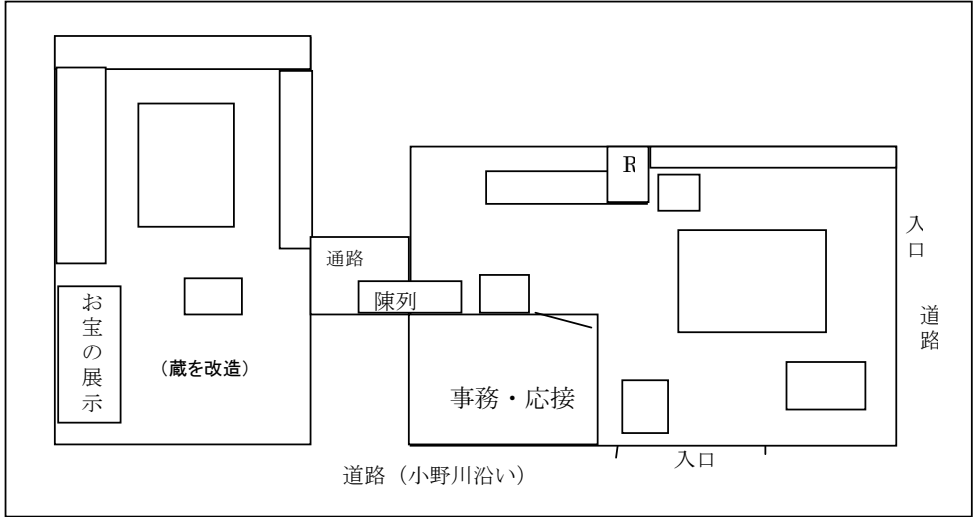
またこの1年間で、中村屋がターゲットとしている中高年の女性を意識した飲食店や、土産物店が空き店舗に新規出店しており、一層来店者の増加が見込まれる。

平成16年2月には、「佐原町並みおかみさん会」が立ち上がり、同店の夫人も加盟し、佐原の活性化に向けた取り組みを行っている。最初の企画として実施したのは、各加盟店が保有する“お宝”を展示する「まちぐるみ博物館」で好評を得ている。中村屋商店では、蔵を改造した店舗内に「連鶴」（一枚の和紙で連なった鶴を折ったもの）を展示している。



▲中村屋商店のお宝展示「連鶴」

【店舗概要情報】

店舗概要				
店舗名	中村屋商店		店舗外観 	
所在地	佐原市佐原イ1720			
創業年	明治7年			
経営者名	並木潤一郎	年齢		59歳
所属商店街名	中央商店街			
店舗沿革	<ul style="list-style-type: none"> ・明治7年に荒物、畳材料の卸商として創業し、ほどなく畳材料の専門卸となる。 ・平成5年に店先で夫人手作りの雑貨類の販売を始める。 ・平成13年に畳材料の専門卸を廃業し「和雑貨・小物の店」に1本化。以降順調に売上を伸ばす。 			
業種		取り扱い商品・サービス		
販売方法別売上構成		商品・サービス	売上構成	
仕入販売	95 %	手作りエプロン、雑貨	%	
加工販売	%	オリジナル雑貨	%	
製造販売	5 %	祭り用品	%	
製造卸	%	和雑貨、小物	%	
サービス	%	草履、足袋	%	
その他()	%	装飾品等	%	
売場面積	89.4㎡	従業者数	1名	
立地環境	<ul style="list-style-type: none"> ・JR佐原駅から徒歩10分程。 ・重要伝統的建造物保存地区のほぼ中央部、伝統的な商家の建物が建ち並び小野川沿いの「忠敬橋」のためとという、観光で訪れる人の大半が通過する商業立地としては一等地にある。中村屋商店の建物も、安政2年(1855年)の建築であり、千葉県有形文化財に指定されている。 			
商圈	・北海道から沖縄まで、各地から観光に訪れる。(地元客5割、観光客5割)			
店舗レイアウト				
 <p>お宝の展示 (蔵を改造)</p> <p>陳列</p> <p>事務・応接</p> <p>通路</p> <p>入口</p> <p>入口</p> <p>道路 (小野川沿い)</p> <p>道路</p>				